

等の婦女篠と手引てぶ金籠を提げもて○註田に下り、芋の大なるを擇み、手引もて根鬚の四邊を周鋤ホリマハシて取上つゝ、小きのは田に残し置て三年一收ヒトセメイドルこと也。又婦女布帛の縷を染む、其色や赤褐にて千回百般浣アラフといへども脱す、倘その莖を吾家に採もち還て染る時は、其色を發さず、唯其所に就て且折且染る也。寒國に此芋スカナ希し。

〔延喜式三十九〕耕種園圃

營芋一段種子二石、總單功卅五人、耕地二遍、把犁一人、馴牛一人、牛一頭、畦上作料理功四人、殖功三人、月壅功六人、芸三遍六人五六七月、度別三人、掘功四人、擇功十人、

〔農業全書五〕野菜

芋は軟白沙に宜じとて、ごみ沙などいかにも和らかなる深き肥地の終日は日のあたらぬ所、或河の邊り、其外少水氣の濕氣はもれやすき所を好みて、高くかはきたる薄き地などは、すべてよからず、又地はいか程も深きを好む物なれども、種る事はさのみ深くはうゆべからず、ふかさ二三寸にして、上より牛馬糞あくた枯草など、何にても地のふくやぎ、和らぐ物を多くおほひ培へば、子多くさきて、大なる物なり。○中山城の鳥羽にて、瓜田の間に芋をうゆる事は畦のはゞ一間ばかりもあり、中一通りは瓜をうへ、瓜區の四方に芋を一かぶづゝ、生立をき、瓜を取終りて中うちし糞を入培ひ、其外手入つねの芋畑と同じ。

〔宣禁本草乾草〕芋頭。辛平有毒、青芋細長而毒多、初煮須灰汁易水煮乃堪食、白芋真芋紫芋、毒少、蒸煮瞰之、野芋大毒不堪瞰、如一根並殺人、土漿救之、冬月食不發病、他月不可食、鯽魚鱧魚和作臘良、久食虛勞無力、煮汁洗膩衣、白如玉、浴去身上浮風、產後煮食之止血渴、血飲芋子、卽四邊附生、多食發痼疾、炊煮服之、喜動風、多食滯氣困脾、主寬腸胃、充肌膚、滑中下氣補虛破血、芋葉冷無毒除煩止瀉、療妊娠心煩悶、胎動不安、擦蜂蟄處愈。